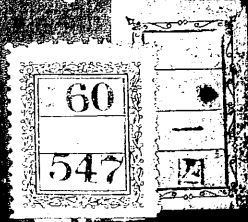


小學修身鑑

平井參編著

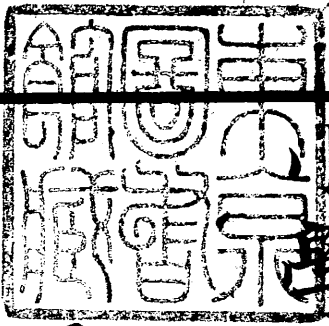
卷二



館新書會育教本日大			
一	一	一	一
八	四	一	九
册	號	架	函



明治十九年十二月廿五日内務省交付ノ...



小學修身鑑卷の二

平井 參 編次

立志



立志とい、おのれの氣を、ふるひおこすことあり、人はいいかねど、ちよありとも、氣象をまげまゝして、事をなすよ、あらざれば、たやすきわざよても、決して、成就することあり、

東京府立第一高等小学校

朱子ノ語

○學を為すハ先づ、須らく、志を立つべし、

同

○志を立つること、定まらざれば、終ト事をおさげ、

光武帝ノ語

○志あるものハ、事、竟ト成

畜徳録

る、

○志向まことあらざれば、便ナ是れ忠信ならず、

胡文定公ノ語

○志を立つるハ、忠信より、欺かざるを以て、本とす、

朱子ノ語

小學傳身金 卷之三

同

○志既よ立て
 は、則、學問次第
 よ、力を著くべ
 し、

○學者志を立
 つること、須ら



金糸隠書

程子ノ語

同

く、勇猛なるべし、

○纔よ、姑らく、來日を待つ
 ハ、斯れ、自ら棄つるなり、

○專一ならざれば、則、直よ、
 遂ぐるべし、能をば、

小學傳身金 卷之三

金糸隠書

那波
烈翁
ノ語

○真正の才智ハ、剛毅の志

向あり

耐忍

耐忍といふは、たへしのぶといふことよ
て、よく辛抱を多しことあり、如何やど
ころろざしと立つるとも、この辛抱
なくてハ、あらぬものゆゑをばて、人

ハ辛抱が大切あり

省
心
録

徳川
家康
遺訓

徳川
光圀
遺訓

○忍べば辱あり

○堪忍ハ、無事長久の基井あり

○分別ハ、堪忍よあると知

徳川家康遺訓 卷之三 四 常楽園

黄山
谷詩

汪信
ノ語

るべし、

○百戦百勝ハ

一忍よ如かず、

○菜根を咬み

得バ、百事做す



べし、

書經

○必ず忍ぶ志と阿れば、其

き、乃ちなることあり、

○容るゝ志とあれば、徳乃

ち大なり、

同

五
常
徳
訓

論語

○小を忍びざれば、則大謀をみだる。

古語

○莫大の過ハ、須臾の忍びざるより、おこる。

孟子

○心を動かし、性を忍んで、

モウニル
レル語

その能^ツせざる所を、増益す。
○世界ハ、大學校あり、困苦ハ、良師友あり、

勤儉

勤といハ、べんきやうすることよて、
儉といハ、けんやくすることあり、勉強す

勤とハ、べんきやうすることよて、
儉とハ、けんやくすることあり、勉強す

昨日
纂

初學
訓

三字
經

心經作集 卷之三 金瓶梅

れバ、福と生ト、儉約すれバ、貧しから
ず、

○勤儉ハ、家と治むるゆゑ
人あり、

○勤むれば、貧しからば、

○勤むれば、功あり、戯むれ

バ、益あり、

○事ハ、強勉よあるのみ、

○人、惰りておごれば、貧し、

勤めて儉なれば、富む、

○費と省きて、財を養へ、

董仲舒
語

管子

蘇軾
ノ語

心經作集 卷之三 金瓶梅 七

藤原隆繼
遺訓

ソロモン
王ノ語

○福ハ、勤ツヨ生ド、禍ハ、惰リヨ生ズ、

○工業と怠ル者ハ、財貨と、濫用する人ト、兄弟あり、

敬慎

敬慎トハ、つツむことあり、口をつツめバ、やまひなく、食をつツめバ、やまひなく、行をつツめバ、あやまらなく、人のゆるがせニすべからざるものハ、敬慎あり、敬めヨ子弟、慎めヨ生徒、

○敬慎ハ、家ヲたもつゆゑ人あり、

昨非
庵日
纂

金葉集
卷之三
三

初學訓

司馬溫公ノ語

左傳

女論語

○ 慎めば、禍ヒなし、

○ 身をつつゝめば、過チなし、

○ 始を慎みて、終を敬め、

○ 凡そ、女子とありては、先

づ、身と立つることを學ぶ、

同

○ 身と立つるの法ハ、清貞

と貴ぶ、

同

○ 清ければ、則チ身潔く、貞け

れば、則チ身榮チむ

○ 女ハ、常ニ心遣ヒて、其身

女大學

荀子

と堅く、謹み守るべし、

○凡そ、百事の成るハ、かな

らず、忠れを敬むよあり、

○その敗るハ、必ず之を

慢るよあり、

同

國語

○慎ハ、徳のまもりなり、

○過ハ、輕慢より、生ず、

傳家寶

守分

守分ハ、また、知足ともいふ、たるをしる
といおのれのみぶんさうわうよくら
すことなり、足らぬを、たるとすれば、た
らぬまとなく、足るを、あらぬとをれば、

守分ハ、また、知足ともいふ、たるをしる
といおのれのみぶんさうわうよくら
すことなり、足らぬを、たるとすれば、た
らぬまとなく、足るを、あらぬとをれば、

たることなし、由るよ、ひやしきも此の、
あつときものをまなぶべからず、まづ
したもののいとめるも此よならふべからず、

白樂天ノ語

○分を識り、足を知る、

蘇東坡ノ語

○分よやすんじて、福をや
しなへ、

留青ノ語

○分よ安んずれば、たのづ
あら足る、

老子

○足をしきべ、をづかし
らば、

省心錄

○足をしるもの、貧賤な

るも、またたのしむ、

○足を知らざるものハ、富
貴なるも、またうれふ、

○つねみ足れりとする人
ハ、かぎりなき、大福なり、

寡欲

寡欲といふよくを、すくなくするといふ
ことゆゑ、たほくものをほしがらぬや
うよするをいふなり、すべて、六どもハ、
みだりよ人のふですみなどをほしが
るべからば、

○欲を、さくなうすれば、身

を、多もつ、

○心をぎよくして、欲をす

くなうせよ

○欲ハ、ほしいまゝ、よずべ

ゐらず、

弘簡錄

禮記

省心雜言

傳家寶

王昭素ノ語

論語

○多欲なれば、生をやぶる、

○禍ハ、多、貪ふり生ず、

○身を、やしなふよハ、欲を

寡くするよ、若くハ、なし、

○利よふりて、たぶなへば、

山陰傳家錄 卷之三 十三

同

怨をほし、

○財よのぞんでい、いやしくも、得る者とならまき、

○利欲内よ阿るものハ、かならずほろぶ、

訓 知仁親王ノ遺訓

藤原資親ノ遺訓

○欲心内ようぶくときい、もろくの悪生ず、

○欲すくなあれば、精神さをやかなり、

賢文書

小學修身鑑卷の二 終

明治十九年七月十日版權免許 價六錢

編者

東京府士族

平井三郎

本所區本所練町三丁目十九番地

出版人

東京府平民

鹿島長二

日本橋區箱崎町三丁目十八番地

發行書肆

東京馬喰町二丁目一番地

石川治兵衛

千葉本町壹丁目四番地

石川代理店立真舎

福島縣福島南裏二丁目

石川支店

K1701

小學修身鑑

平井參編著

卷三

